

# InstallShield 2020 リリース ノート

オリジナル リリース 2020 年 5 月、R3 SP1 を含むアップデート リリース (2021 年 6 月)、R3 を含む  
アップデート リリース (2020 年 11 月)、R2 を含むアップデート リリース (2020 年 8 月)

はじめに.....	2
<b>R3 SP1 での変更点.....</b>	<b>2</b>
InstallShield 前提条件で MSIX パッケージおよびバンドルをサポート.....	2
R3 SP1 の強化内容.....	2
R3 SP1 のバグ修正.....	3
<b>R3 での変更点.....</b>	<b>3</b>
InstallShield Azure DevOps ビルド拡張.....	3
[ファイルとフォルダー] ビューのショートカット オプション.....	3
MSIX フォント.....	4
<b>R2 での変更点.....</b>	<b>4</b>
MSIX バンドル.....	5
MSIX - サービスのサポート.....	5
スイート/アドバンスド UI 向けの MSIX バンドルまたは AppX バンドル パッケージ.....	6
<b>新しい機能.....</b>	<b>6</b>
MSIX 変更パッケージ.....	6
MSIX コアのサポート.....	8
ピュア 64 ビット インストーラー.....	9
AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート.....	10
<b>強化機能.....</b>	<b>10</b>
InstallShield 2020 R3 SP1.....	10
InstallShield 2020 R3.....	12
InstallShield 2020 R2.....	15
InstallShield 2020.....	16
<b>重要な情報.....</b>	<b>17</b>
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要.....	18
InstallShield の評価.....	18
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....	18
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	19
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	19
[アップデート通知] ビューの削除.....	19
<b>プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....</b>	<b>20</b>
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....	20
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	20

文字列のローカライズに関する考慮.....	21
<b>バグ修正</b> .....	<b>21</b>
InstallShield 2020 R3 SP1.....	21
InstallShield 2020 R3.....	22
InstallShield 2020 R2.....	23
InstallShield 2020.....	25
<b>システム要件</b> .....	<b>26</b>
InstallShield を実行するシステムの要件.....	27
ターゲット システムの要件 .....	28
<b>既知の問題</b> .....	<b>29</b>
<b>法的情報</b> .....	<b>29</b>

## はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、MSIX パッケージ、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。

InstallShield 2020 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

## R3 SP1 での変更点

InstallShield 2020 R3 SP1 には、以下の変更が含まれています:

- ・ [InstallShield 前提条件で MSIX パッケージおよびバンドルをサポート](#)

## InstallShield 前提条件で MSIX パッケージおよびバンドルをサポート

InstallShield 前提条件で次の MSIX パッケージおよびバンドルのサポートが追加されています:

- ・ InstallShield 前提条件に MSIX パッケージおよびバンドルを追加または構成する。
- ・ 検出条件に基づいて、選択された MSIX パッケージまたはバンドルをインストールする。

## R3 SP1 の強化内容

InstallShield 2020 R3 SP1 の強化内容についての詳細は、「[InstallShield 2020 R3 SP1](#)」を参照してください。

## R3 SP1 のバグ修正

InstallShield 2020 R3 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2020 R3 SP1](#)」を参照してください。

## R3 での変更点

InstallShield 2020 R3 には、以下の変更が含まれています:

- [InstallShield Azure DevOps ビルド拡張](#)
- [\[ファイルとフォルダー\] ビューのショートカット オプション](#)
- [MSIX フォント](#)

## InstallShield Azure DevOps ビルド拡張

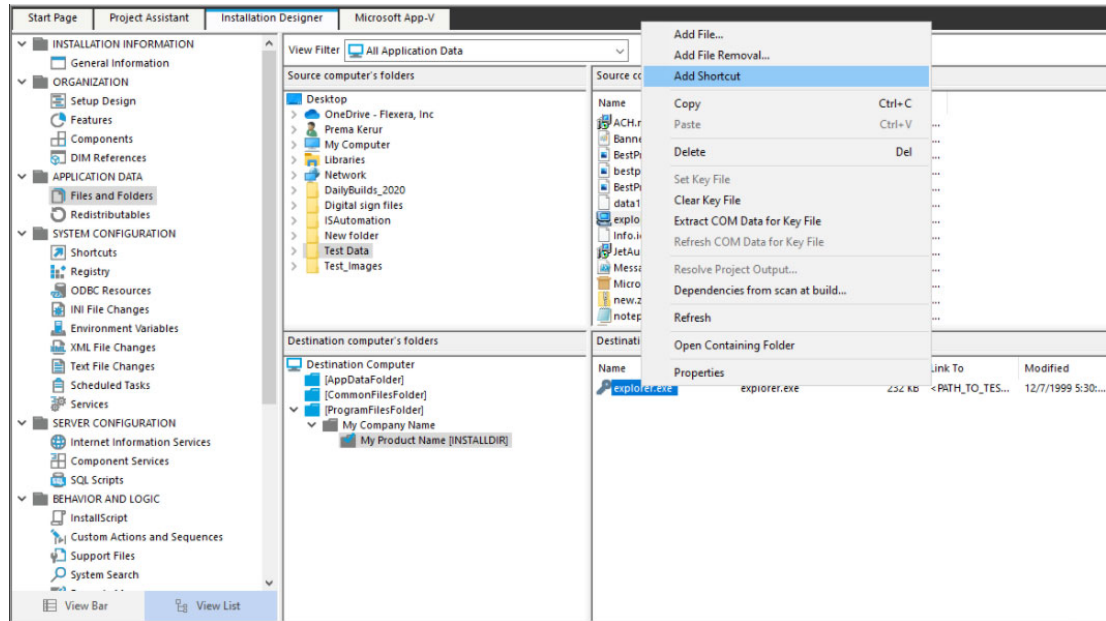
InstallShield 2020 R3 では、Azure DevOps Pipelines で InstallShield プロジェクトをビルドするネイティブ拡張が追加されました。タスクを構成して InstallShield プロジェクトをビルドするには、[InstallShield Azure DevOps ビルド拡張のサポートの技術情報の記事 \(英語\)](#) を参照してください。

## [ファイルとフォルダー] ビューのショートカット オプション

基本の MSI プロジェクトで、[ファイルとフォルダー] ビューにショートカットの作成オプションが追加されました。

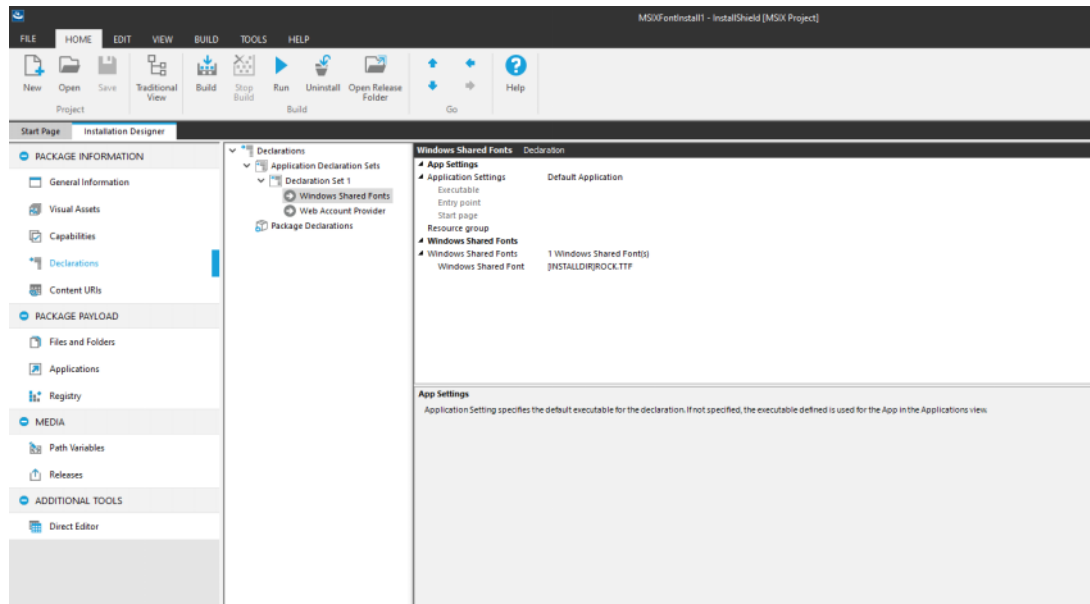
[ファイルとフォルダー] ビューからショートカットを作成するには、次の手順に従います。

1. 実行可能ファイルを右クリックします。
2. [ショートカットの追加] オプションをクリックします。



## MSIX フォント

InstallShield では、MSIX プロジェクトで「Windows 共通フォント」宣言がサポートされています。この宣言は、[宣言] ビューから MSIX プロジェクトに追加することができ、カスタム フォントをインストールし、システム上のその他のアプリケーションとそれを共有する事ができます。



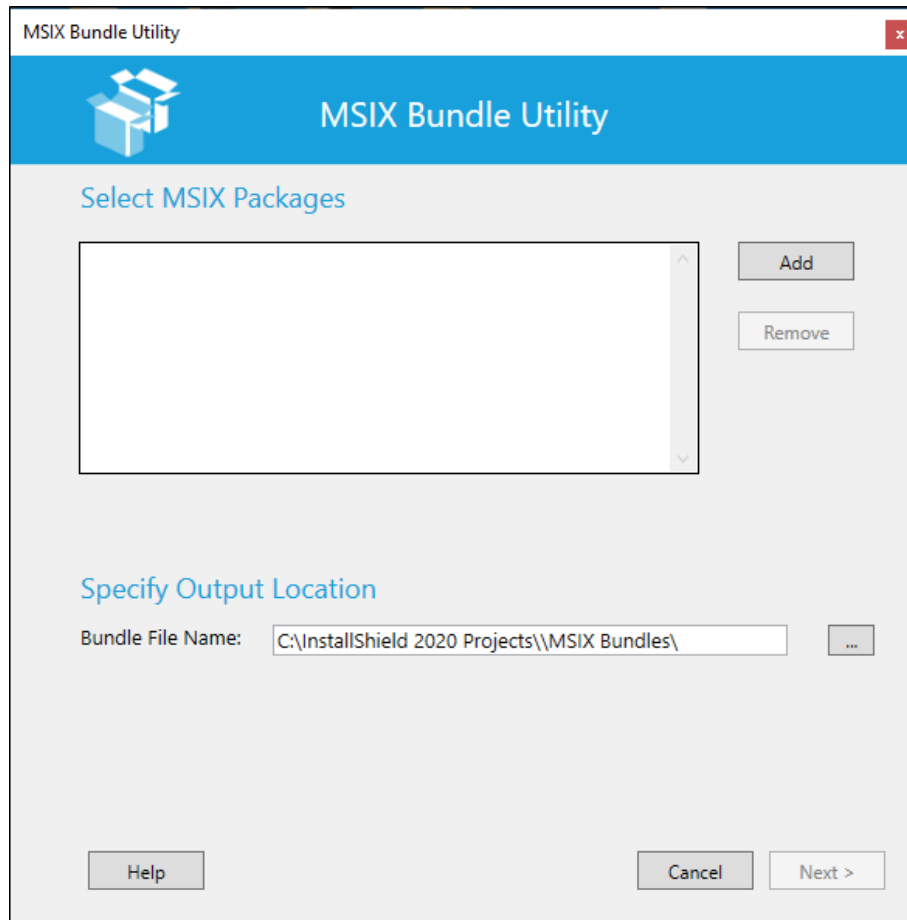
## R2 での変更点

InstallShield 2020 R2 には、以下の変更が含まれています:

- ・ [MSIX バンドル](#)
- ・ [MSIX - サービスのサポート](#)
- ・ [スイート/アドバンスド UI 向けの MSIX バンドルまたは AppX バンドル パッケージ](#)

## MSIX バンドル

新しい MSIX バンドル ユーティリティを使って MSIX バンドルを作成できます。アーキテクチャ固有のパッケージをユーティリティに追加し、署名情報を入力して MSIX バンドルを作成します。



## MSIX - サービスのサポート

今回より、新しい宣言をパッケージに追加することで、サービスを含む MSIX パッケージを作成できるようになりました。また、基本の MSI プロジェクトに既存するサービスを MSIX パッケージに変換することもできます。

# スイート/アドバンスト UI 向けの MSIX バンドルまたは AppX バンドル パッケージ

MSIX バンドルを作成できる機能に加えて、それをスイート/アドバンスト プロジェクトに追加し、他のパッケージと共にインストールすることも可能になりました。

## 新しい機能

InstallShield 2020 には、以下のような新機能が追加されています:

- [MSIX 変更パッケージ](#)
- [MSIX コアのサポート](#)
- [ピュア 64 ビット インストーラー](#)
- [AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート](#)

## MSIX 変更パッケージ

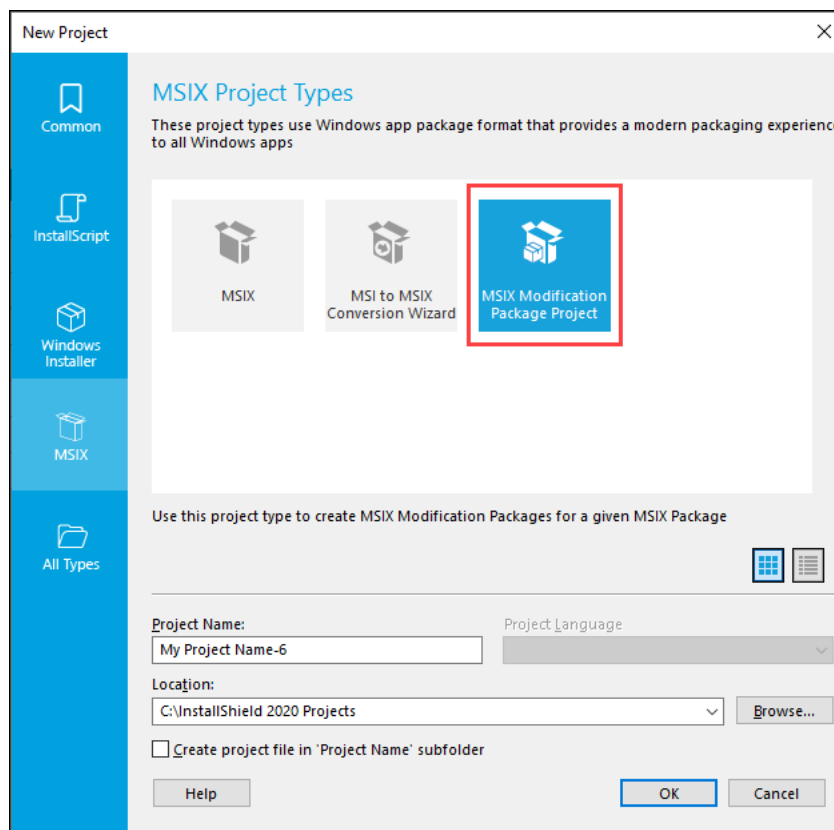
今回より InstallShield を使って、任意の MSIX パッケージの変更パッケージを作成することができます。MSIX 変更パッケージを作成するには、次の手順に従ってください。



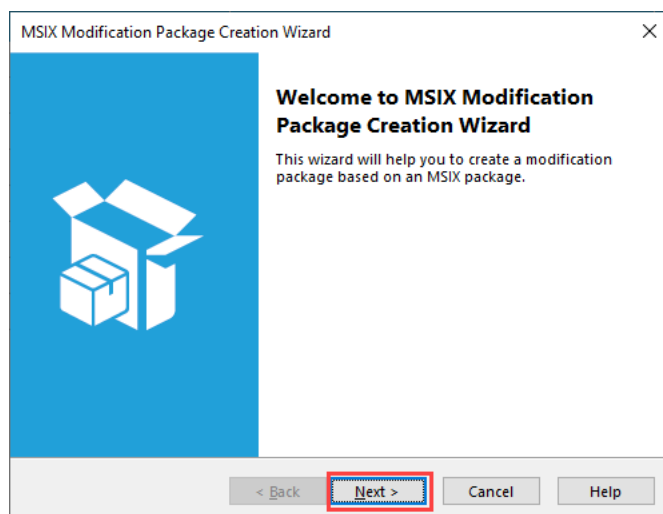
## タスク

MSIX 変更パッケージを作成するには:

1. **[新しいプロジェクト]** ダイアログで **[MSIX 変更パッケージ プロジェクト]** を選択してから、**[OK]** をクリックします。

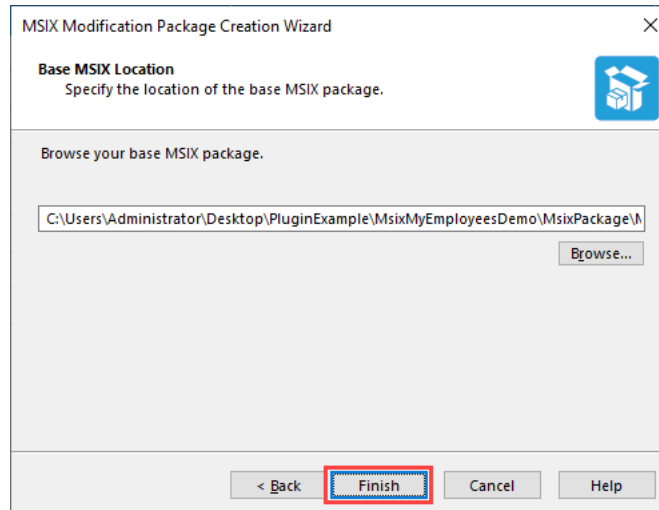


MSIX 変更パッケージ作成ウィザードが開きます。



2. **[次へ]** をクリックします。**[基本の MSIX の場所]** パネルが開きます。

3. ベース MSIX パッケージを参照して、**[完了]** をクリックします。



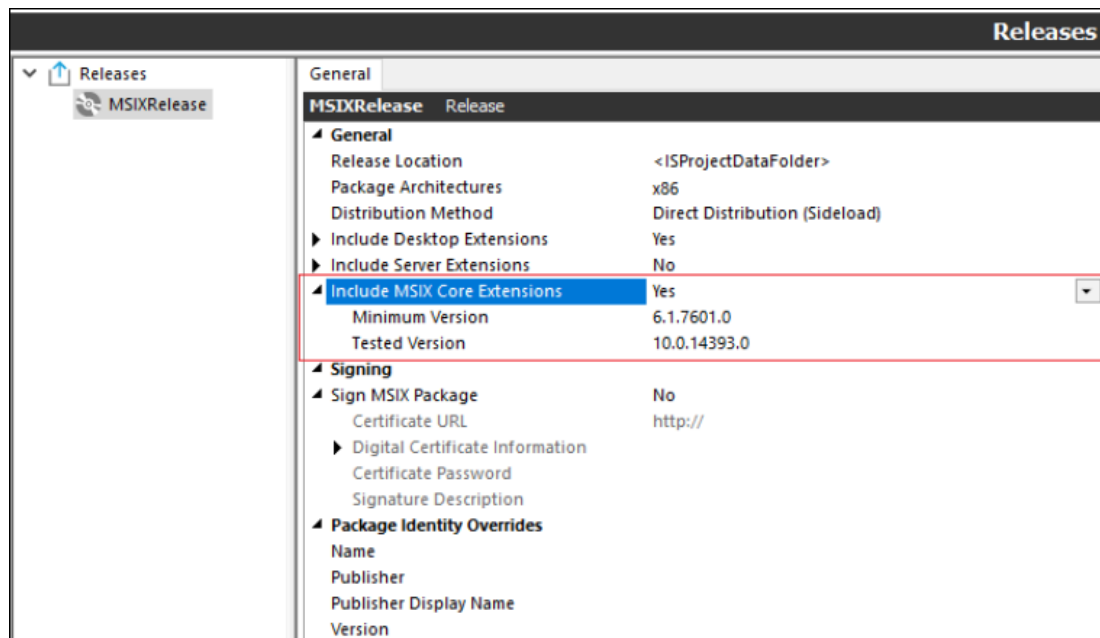
4. InstallShield のインストール デザイナーを開き、**[ファイルとフォルダー]** ビューで、変更パッケージに追加したい新しいファイルをすべて追加します。
5. **[レジストリ]** ビューで、変更パッケージに含める任意のエントリを追加または変更することができます。
6. **[リリース]** ビューで、デジタル署名情報を追加します。
7. プロジェクトをビルドします。MSIX 変更パッケージが生成されます。

## MSIX コアのサポート

InstallShield 2020 R1 より、Windows 7 および Windows 10 の古いバージョン (1709 以前) をターゲットとする MSIX パッケージを作成およびインストールすることができます。さらに、サポートされているすべてのプラットフォームに MSIX パッケージをインストールする単一のスイート インストーラーを作成することも可能です。

基本の MSI プロジェクトまたは MSIX プロジェクトで MSIX パッケージを作成するとき、**[リリース]** ビューの値を次のように設定してください:

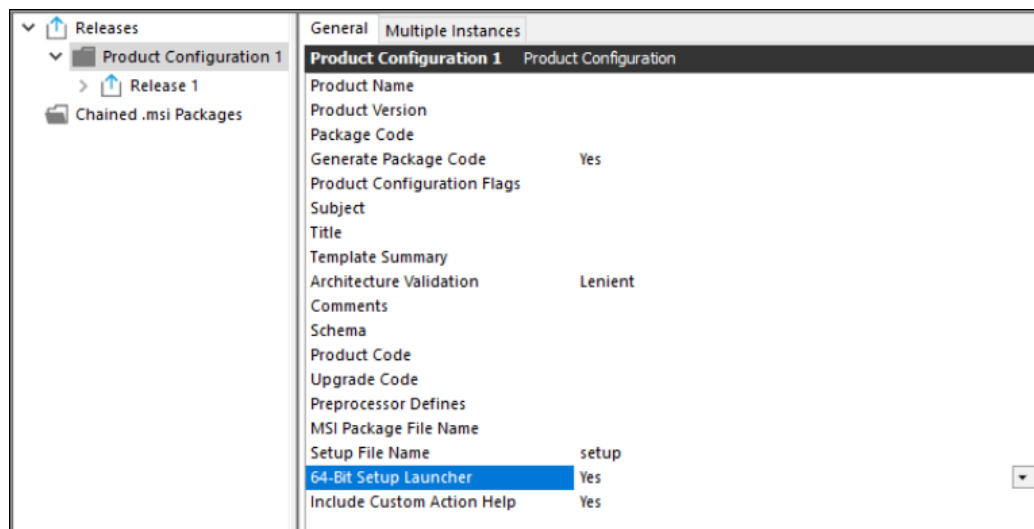




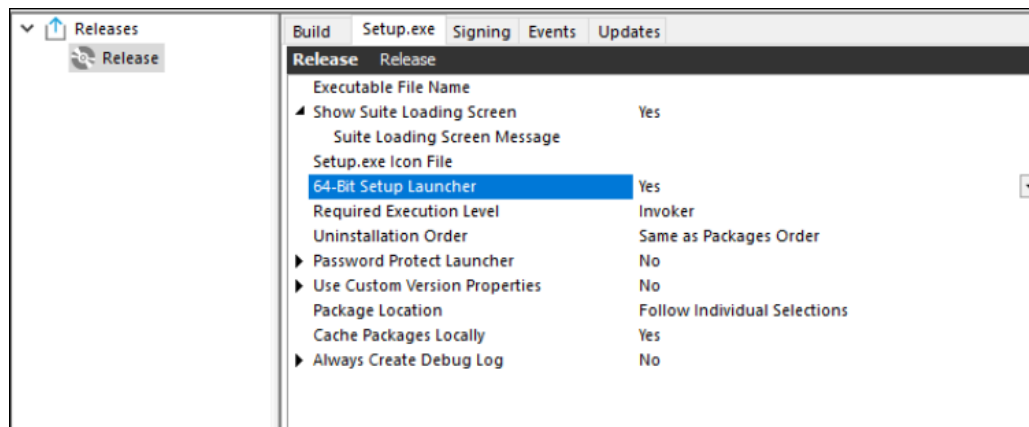
## ピュア 64 ビット インストーラー

2020 R1 より、基本の MSI プロジェクトおよびスイート プロジェクトで 64 ビット ランチャーを使った インストーラーを作成することができます。

- 基本の MSI プロジェクトでピュア 64 ビット インストーラーを作成するには、[製品の構成] ビューに移動して [64 ビット セットアップ ランチャー] を選択します。



- スイート プロジェクトでピュア 64 ビット インストーラーを作成するには、[リリース] ビューに移動して [64 ビット セットアップ ランチャー] を選択します。



## AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート

InstallShield を使って、今回より AWS CloudHSM ベースのデジタル署名を使ってインストーラーにデジタル署名を行うことができます。

この機能を有効化するには、次の場所にある Settings.xml ファイルに、下に表示されるプロパティを追加してください:

<InstallShield\_Location>/Support/<0409¥0411>Settings.xml

次のプロパティを Settings.xml ファイルに追加します:

```
<!-- Specify Platform = X86 | X64 for Digital Signing -->
<DigitalSignature Platform="X64"/>
```

## 強化機能

InstallShield 2020 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2020 R3 SP1](#)
- [InstallShield 2020 R3](#)
- [InstallShield 2020 R2](#)
- [InstallShield 2020](#)

## InstallShield 2020 R3 SP1

InstallShield 2020 R3 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [VC++ 2019 前提条件による再開の機能強化](#)
- [.NET コア 3.1.12 前提条件](#)
- [.Net コア 5.0.3 前提条件](#)

- ・ [よくあるアクティベーション関連の問題についてのサポート技術情報の記事へのリンク](#)
- ・ [.Net Core 5.0 Hosting Bundle 前提条件](#)
- ・ [Microsoft SQL Server 2016 Express Management 前提条件](#)
- ・ [Microsoft OLE DB Driver for SQL Server 前提条件](#)
- ・ [会社名の上書きサポート](#)
- ・ [Microsoft ODBC Driver 17 for SQL Server 前提条件](#)

## VC++ 2019 前提条件による再開の機能強化

VC++ 2019 再配布可能ファイルのインストール中、TEMP フォルダー内に作成される一時ファイルの名前の変更が保留されるため、InstallShield VC++ 2019 前提条件が再開する問題を解決。

VC++ 2019 前提条件のインストール中に TEMP フォルダーに作成された一時ファイルの PendingFileRenameOperations 登録キーの変更を無視するように InstallShield VC++ 2019 前提条件および InstallShield 2020 R3 前提条件エンジンが変更されました。

この変更の結果、VC++ 2017 再配布可能ファイルと共にインストールされたマシン上にインストールされた後でも、InstallShield VC++ 2019 前提条件がマシンを再開することが無くなりました。



---

**メモ**・この変更は IOJ-2186316 として記録されています。

## .NET コア 3.1.12 前提条件

前提条件一覧に .NET core 3.1.12 前提条件の再配布可能ファイル一覧が追加されました。



---

**メモ**・この変更は IOJ-2182152 として記録されています。

## .Net コア 5.0.3 前提条件

x64 および x86 アーキテクチャをサポートする .NET Desktop Runtime 5.0.3 および ASP.NET Core Runtime 5.0.3 用の前提条件ファイルが作成されました。



---

**メモ**・この変更は IOJ-2178383 として記録されています。

## よくあるアクティベーション関連の問題についてのサポート技術情報の記事へのリンク

InstallShield アクティベーション ウィザードの [インターネット アクティベーションが失敗しました] ダイアログに、一般的なアクティベーション関連問題の解決策が掲載されているサポート技術情報記事 (KB) 記事へのリンクが追加されました。



---

**メモ**・この変更は IOJ-2164980 として記録されています。

## .Net Core 5.0 Hosting Bundle 前提条件

.Net Core 5.0 Hosting Bundle の前提条件が作成されました。



*メモ*・この変更は IOJ-2163273 として記録されています。

## Microsoft SQL Server 2016 Express Management 前提条件

Microsoft SQL Server 2016 Express Management オブジェクト用の前提条件ファイルが作成されました。



*メモ*・この変更は IOJ-2160465 として記録されています。

## Microsoft OLE DB Driver for SQL Server 前提条件

Microsoft OLE DB Driver for SQL Server バージョンの前提条件ファイルが作成されました。



*メモ*・この変更は IOJ-2192129 として記録されています。

## 会社名の上書きサポート

InstallShield コマンドライン ビルドを使って、`-z Manufacturer="製造元の名前"` を指定することで、Manufacturer Windows Installer プロパティ値の上書きをサポートします。



*メモ*・この変更は IOJ-2167408 として記録されています。

## Microsoft ODBC Driver 17 for SQL Server 前提条件

Microsoft ODBC Driver 17 for SQL Server の前提条件ファイルが作成されました。



*メモ*・この変更は IOJ-2174049 として記録されています。

# InstallShield 2020 R3

InstallShield 2020 R3 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- ・ **スイート読み込み画面のイメージ**
- ・ **デバッグ ログ ファイル名のカスタマイズをサポート**
- ・ **製品構成のタイルおよびサブジェクトを上書きするオートメーションのサポート**
- ・ **ライセンス チェックのタイムアウトをサポートする新しいコマンドライン パラメーター**
- ・ **[ウィザード インターフェイス] ビューのナビゲーション バーの高さ**
- ・ **スイートのプロパティを使って、スイート条件を構成**

- ・ スイート GUID の取得
- ・ 失敗した前提条件のエラー通知
- ・ Web から .Net Core 3.1 PRQ をダウンロード

## スイート読み込み画面のイメージ

今回より、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI セットアップ ランチャーのスイート読み込み画面イメージに追加するイメージを追加することができます。



---

**メモ**・この変更は IOJ-2097173 として記録されています。

## デバッグ ログ ファイル名のカスタマイズをサポート

”スイート デバッグ ログ ファイル名” フィールドに、次のいずれかの形式のデバッグ ログ ファイル名パスを使用できるようになりました:

- ・ 完全な絶対パス、例: C:\InstallShield.log
- ・ 相対パス、例: InstallShield.log、..\InstallShield.log、..\dir\InstallShield.log など
- ・ 標準 Windows 環境変数、例: %TEMP%\InstallShield.log



---

**メモ**・この変更は IOJ-2105336 として記録されています。

## 製品構成のタイルおよびサブジェクトを上書きするオートメーションのサポート

オートメーション インターフェイスを使って新しい製品構成のタイルおよびサブジェクトのプロパティを設定するためのサポートが追加されました。



---

**メモ**・この変更は IOJ-1753431 として記録されています。

## ライセンス チェックのタイムアウトをサポートする新しいコマンドライン パラメーター

同時接続ライセンス サーバーを使用している場合、すべてのライセンスが使用中で、前のビルドが終了してライセンスをチェックアウトするのを待機してから次のビルドを行いたい場合があります。新しく追加されたコマンドライン パラメーター “-licCheckTimeOut <秒>” を使って、ライセンス サーバーからライセンスを使用可能かどうかチェックする時間帯を設定することができます。コマンドラインの例: “IsCmdBld.exe -p “C:¥InstallShield 2020 Projects¥TestProj.ism” -licCheckTimeOut 40”



メモ・この変更は IOJ-2149809 として記録されています

## [ウィザード インターフェイス] ビューのナビゲーション バーの高さ

ウィザード ナビゲーションのオプションで、[ウィザード インターフェイス] ビューに新しい “ナビゲーション バーの高さ” フィールドが追加されました。ナビゲーション バーの高さは、必要に応じてこのフィールドの値を変更して制御することができます。



メモ・この変更は IOJ-2151264 として記録されています。

## スイートのプロパティを使って、スイート条件を構成

GUID の代わりにスイートのプロパティを使って、“製品コード”、“パッケージ コード”、“パッチ コード”、および “バージョン” フィールドを構成することができます。



メモ・この変更は IOJ-1720271 として記録されています。

## スイート GUID の取得

インストールせずにセットアップからスイート GUID を取得するためのコマンドライン オプションが提供されています。



メモ・この変更は IOJ-2128856 として記録されています。

## 失敗した前提条件のエラー通知

InstallShield 2020 より、前提条件の読み込みに失敗したとき、適切なエラー メッセージが表示されません。



メモ・この変更は IOJ-1898198 として記録されています。

## Web から .Net Core 3.1 PRQ をダウンロード

.NET Core 3.1 PRQ for Windows Hosting Bundle Installer を Web からダウンロードして、Setup.exe から抽出できるようになりました。



メモ・この変更は IOJ-2148734 として記録されています。

## InstallShield 2020 R2

InstallShield 2020 R2 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- ・ MSIX でユニバーサル デバイスによるデバイス ファミリーのターゲットをサポート
- ・ [ファイルとフォルダー] ビューからアプリケーションを追加できる機能
- ・ 新しいセットアップ前提条件
- ・ 前提条件のインストールに失敗した場合に InstallScript セットアップが強制終了しません
- ・ 再配布可能ファイル ダウンローダー

### MSIX でユニバーサル デバイスによるデバイス ファミリーのターゲットをサポート

今回より、MSIX プロジェクトの [リリース] ビューで、ユニバーサル デバイスがデバイス ファミリー およびバージョンをターゲットにする構成をサポートします。

### [ファイルとフォルダー] ビューからアプリケーションを追加できる機能

今回より、MSI プロジェクトで [ファイルとフォルダー] ビューから直接、実行可能ファイルのアプリケーションを追加することができます。



メモ・この変更は IOJ-2091795 として記録されています。

### 新しいセットアップ前提条件

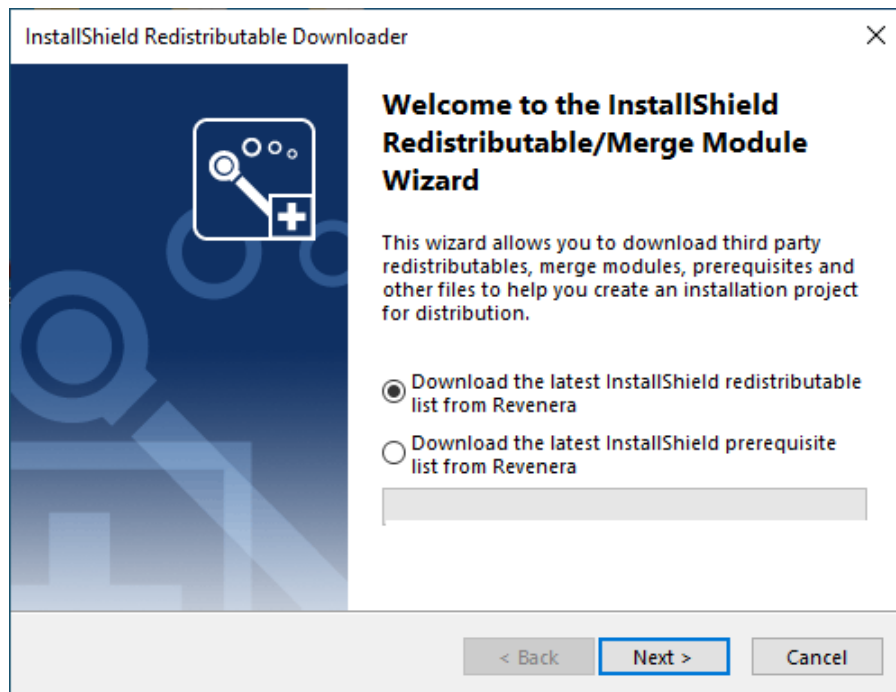
新しいセットアップ前提条件 Microsoft SQL Server 2017 Express が追加されました。

### 前提条件のインストールに失敗した場合に InstallScript セットアップが強制終了しません

ピュア InstallScript セットアップでは、サイレント インストール中、前提条件のインストールに失敗した場合にセットアップを強制終了するように構成してあった場合は、強制終了が可能です。

### 再配布可能ファイル ダウンローダー

InstallShield 再配布可能ファイル ダウンローダー ウィザードの機能が強化されており、最新の前提条件 ファイルを素早くダウンロードすることができます。



メモ・この変更は IOJ-2117349 として記録されています。

## InstallShield 2020

InstallShield 2020 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- ・ エラー以外のすべてのコマンドライン出力のビルドを抑制する機能
- ・ Windows Server 2019 のサポート強化
- ・ セキュリティで保護された LogonInformation ダイアログの実装
- ・ Setup.exe のファイルバージョン構成

### エラー以外のすべてのコマンドライン出力のビルドを抑制する機能

InstallShield 2020R1には、新しいコマンドライン パラメーターが追加されています: /seこのパラメーターが使用されると、すべてのコマンドライン ビルドの出力が抑制され、(存在する場合) エラーのみが表示されます。



メモ・この変更は IOJ-2077162 として記録されています。

### Windows Server 2019 のサポート強化

InstallShield 2020 R1 より、InstallScript インストーラーで Windows Server 2019 をターゲットにすることができます。





---

メモ・この変更は 10J-1989658 として記録されています。

## セキュリティで保護された LogonInformation ダイアログの実装

コンピューター ブラウザーが今後サービスとしてサポートされなくなる Windows Server プラットフォームへの変更に伴い、LogonInformation ダイアログがよりセキュリティ性の高い実装を使用します。



---

メモ・この変更は 10J-1986738 として記録されています。

## Setup.exe のファイルバージョン構成

[リリース] ビューで setup.exe のファイル バージョンが構成可能となり、-fv スイッチを使ってコマンドラインでプロジェクトの設定をオーバーライドすることができます。



---

メモ・この変更は 10J-1605084 として記録されています。

## 新しいセットアップ前提条件

InstallShield 2020R1 では、次のセットアップ前提条件が追加されています：

- Microsoft OLE DB Driver 18.3.0.0
- Microsoft SQL Server 2019 Express
- Microsoft Visual C++ 2019
- Microsoft .NET Core Framework 3.1
- Updated install conditions for .NET Framework 4.8
- MSIX Core 1.1

# 重要な情報

InstallShield 2020 リリースに関する次の重要な情報に注意してください：

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[アップデート通知\] ビューの削除](#)

# 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2020 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2020 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2020 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェックアウトしません。



**メモ**・新しいバージョンの FlexNet Licensing Server ソフトウェアを使って、InstallShield 2020 および InstallShield の以前のリリース の両方を管理することができます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[InstallShield 2016 以降の同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ・InstallShield 2020 より、Collaboration Edition (DIM エディター) が使用できなくなりました。

## InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2020 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2020 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2020 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

## [アップデート通知] ビューの削除

InstallShield 2020 R1 より、FlexNet Connect を統合して InstallShield を使ってアップデートを確認できる、アップデート通知機能のサポートが終了しました。この統合で使用されたマージモジュールは、今回より InstallShield にバンドルされていません。これまでにこの統合機能をご利用いただいたお客様には、以前の InstallShield インストールからマージ モジュールをコピーして、引き続き同じ機能をご利用いただくことができます。詳細については、[ここをクリックしてください](#)。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2020 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2020 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2020 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

# InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2020 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2020 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2020 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

## 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていない時に発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

# バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2020 R3 SP1](#)
- [InstallShield 2020 R3](#)
- [InstallShield 2020 R2](#)
- [InstallShield 2020](#)

## InstallShield 2020 R3 SP1

次の問題が、InstallShield 2020 R3 SP1 で解決されました:

問題番号	問題の概要
IOJ-2167645	インストール後、特定の COM+ アプリケーションを登録するとき、InstallShield Component サービス、COM+ アプリケーションのトランザクション設定が、ターゲットシステムに影響することが無くなりました。この問題は解決されました。
IOJ-2163212	DeleteDir スクリプトが、シンボル リンクが参照されている時にファイルとフォルダーを削除しました。この問題に対する修正が行われ、シンボル リンクのみが削除され、その参照先のコンテンツは保持されます。
IOJ-1928355	前提条件セットアップがマップされたドライブからの前提条件のインストールに失敗し、「セットアップ初期化ファイルの読み込みエラー」エラーが発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2193899	VC++ 2010 前提条件の実行時 URL に誤りがありました。この問題を解決するために、製品内および Satum サーバーに正しい前提条件 ファイルが更新されています。
IOJ-2179070	InstallScript プロジェクトで、再起動の後プロジェクトが [メンテナンス] ダイアログを再開しました。この問題は解決されました。
IOJ-2167140	Suite インストーラーで、MSIX/AppX パッケージの "必要実行レベル" を [管理者] に設定したとき、標準ユーザーには何もプロンプトが表示されませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2078693	インストール中、Suite インストーラーが依存ファイルを一時保管場所に抽出しませんでした。そのため、依存関係が見つからないためにインストーラーが拡張 DLL の読み込みに失敗しました。この問題は解決されました。
IOJ-2193248	InstallScript プロジェクトで、SdLicenseEx ダイアログが表示されるまでに通常よりも長く時間がかかりました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-2160741	VS 2008 SP1 再配布可能ファイル パッケージを Microsoft Web サイトからダウンロードすることができませんでした。このパッケージは前提条件ダウンローダーを介して配布されるようになりました。
IOJ-2164205	InstallScript でインストールのタイムアウトが設定されている時、タイムアウト値が経過した後にインストールがハングしました。この問題は解決されました。
IOJ-2198732	アンインストールをキャンセルした後に再びアンインストールを行うと、実行に失敗しました。この問題は解決されました。

## InstallShield 2020 R3

次の問題が、InstallShield 2020 R3 で修正されました:

問題番号	問題の概要
IOJ-2130601	Setup.exe の名前を setup.org に変更した場合、CreateProcess を使って呼び出した時にセットアップが起動しませんでした。今回より、セットアップは setup.exe および setup.org の両方の名前で起動します。
IOJ-1860572	ISWiSQLScript を実行中に、オブジェクト RunOnLogon がサポートされませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2096411	InstallScript インストーラーによってインストールが完了した後、イメージ ファイルが Temp フォルダーに残りました。Temp フォルダーにファイルが残る問題は修正されました。
IOJ-2149765	InstallScript MSI をアンインストールした後にコンピューターを再起動すると、エラーが発生しました。コンピューターの再起動時にエラーが発生することは無くなりました。
IOJ-2131433	InstallScript MSI インストールがインストールを完了した後、Temp フォルダーがクリアされませんでした。Temp フォルダーにファイルが残る問題は修正されました。
IOJ-2130141	インストール中、特定のコンポーネント サービスのインストールが失敗しました。今回より、PI_error.dll が正しく登録され、特定のコンポーネント サービスが正しくインストールされます。
IOJ-2097165	パスからファイルを追加したとき、引用符付きのパス変数が認識されませんでした。今回より、パス変数は引用符付きの場合でも引用符なしの場合でもファイルパスを識別することができます。
IOJ-2158185	MSI プロジェクトで SQL スクリプトが SQL 認証を使って新しい DB カタログを作成するのに失敗しました。この問題は解決されました。SQL スクリプトは今回より、新しい DB カタログを正しく作成します。

問題番号	問題の概要
IOJ-2125089	再起動後に UseDLL() 関数の読み込みに失敗しました。今回より、再起動後に dll が正しく読み込まれます。
IOJ-2159747	[新しいユーザー情報] ウィンドウで [グループ] が選択されている場合、LogonInformation ダイアログに「リストが空白です」エラーが表示されました。今回より、ユーザー グループを選択した場合に、エラーが発生することが無くなりました。

## InstallShield 2020 R2

次の問題が、InstallShield 2020 R2 で修正されました:

問題番号	問題の概要
IOJ-2125002	[一般情報] ビューの下にある "プログラムの追加と削除" 設定から ReadMe フィールド値を削除しても、以前に格納済みの値がクリアされませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2121216	IS 2020 R1 でビルドされたパッチは常にファイルバージョンが 0.0.0.0 となり、[一般情報] セクションに入力された値が無視されました。この問題は解決されました。
IOJ-2120681	InstallShieldInstallScriptObjects.exe や InstallShieldInstallScriptdotnetObject.exe などの日本語インストーラーは、インストールが完了するまでに長時間フリーズした状態に見受けられました。この問題は解決されました。
IOJ-2120033	ISHiddenProperties に含まれているプロパティが引数を使ってスイートランチャーに渡された場合、パスワードが難読化された値ではなくテキストで表示されました。この問題は解決されました。
IOJ-2119112	InstallScript および スイートプロジェクトで ISSetup.dll のデジタル署名が失敗しました。この問題は解決されました。
IOJ-2118022	InstallScript MSI ログ ファイルで、MsiHiddenProperties に含まれているプロパティを通してパスワードがテキスト形式で表示されました。この問題は解決されました。
IOJ-2112218	InstallScript MSI プロジェクトを IS 2016 から IS 2018 または IS 2019 に移行した場合、プロジェクトとは関係のない "IISBrowseSSLCertificate" ダイアログが追加されました。移行されたプロジェクトをビルドすると、追加されたダイアログの為に警告が発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2111353	DVD10 または DVD18 リリースで MSI エンジン 3.1 を追加した場合、Setup.exe の起動が失敗しました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-2105650	スイート パッケージが選択されていない場合でも、関連パッケージで "UI 選択の変更を許可" が [いいえ] に設定されている場合、これがインストールされました。この問題は解決されました。
IOJ-2097698	CMDLINE ドキュメントの「メモ」セクションで、CMDLINE に渡される引数の大文字と小文字の区別に関する記述で、実際の製品の動作とは一致しない部分がありました。製品の動作に合わせてドキュメントが改訂されています。
IOJ-2066915	InstallScript プロジェクトで、イベントが関数に関連付けられた後に機能イベントを [選択なし] に設定することができませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-1930715	QuickPatch で 64 ビット コンポーネント レジストリを変更すると 32 ビット レジストリに書き込まれました。この問題は解決されました。
IOJ-1720983	ディスク空き容量が少ないマシン上で、プロジェクトのビルド中に InstallShield がクラッシュしました。この問題は解決されました。

## InstallShield 2020

InstallShield 2020 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2110348	[ビルドの設定] ダイアログで "プリプロセッサ定義" フィールドが空白の場合、InstallShield が InstallScript MSI プロジェクトをビルド中にクラッシュする問題がありました。この問題は解決されました。
IOJ-2109648	InstallShield では、ネイティブとマネージ コンポーネントの両方を含む混合モード アセンブリを抽出できない問題がありました。この問題は解決されました。
IOJ-2104998	Microsoft OLE DB Driver for SQL Server 18.2.2.0 の x86 および x64 用前提条件ダウンロードの場所は、前提条件が Web からダウンロードされたときに破損する問題がありました。ダウンロード リンクが本リリースで修正されました。
IOJ-2103083	InstallShield 2016 で [XML ファイル] ビューにあった [削除] および [追加] 機能は、InstallShield 2018 以降使用できませんでした。この機能が、今回 [XML ファイル] ビューに再び追加されました。
IOJ-2102367	Microsoft SQL Server Compact 4.0 (x64).prq のダウンロード リンクが Microsoft によって変更されたため、InstallShield 2019 でこの前提条件を使用中にダウンロード エラーが発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2102365	NET Framework 4.8 の前提条件が、誤ったリリース番号を確認したために、Windows 10 1903 および 1909 リリースで問題が発生しました。この問題は解決されました。



問題番号	問題の概要
IOJ-2097648	テキストファイルの変更を削除して、カスタムアクションおよびシーケンスを選択すると、InstallShield IDE がクラッシュする問題がありました。この問題は解決されました。
IOJ-2094029	InstallShield 2019 以前で、InstallShield スキン カスタマイズ キットの日本語版インストーラーが応答および完了するまでに時間がかかりました。この問題は解決されました。
IOJ-2086897	InstallShield 2019 R2 以降では、IS 2012 を使ってビルドされたマイナー アップグレードを含む特定のプロジェクトをビルドすると、致命的なエラー 6419 が発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2083142	InstallShield 2018 および 2019 で、Microsoft SQL Server 2012 Native Client 11.2.5058.0 x64 の前提条件をダウンロードできませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2077466	基本の MSI プロジェクトで [アップグレード] ビューから 'ISPreventDowngrade' が削除されたとき、[印刷] ボタンがエラーをスローしました。この問題は解決されました。
IOJ-2073966	"戻り値の処理" 設定で [同期 (終了コードを無視)] オプションを使って [ディレクトリの設定] カスタム アクションを使用すると、"戻り値の処理" フィールドにこのオプションは使用できないため、エラー 2723 が発生しました。このオプションは、このフィールドから削除されました。
IOJ-2073184	InstallShield 2019 R2 では、[完全なウィザード背景] で単一のブラシを使用してヘッダー、ボディー、およびナビゲーション領域に単一色を使用することができませんでした。この問題は修正されました。
IOJ-1851668	アップデートの確認に使用されるバイナリ (OpenSSL) が脆弱性をもたらす問題がありました。今回、バイナリ (OpenSSL) が削除されました。
IOJ-1922740	64 ビット InstallScript MSI プロジェクトで IIS パッケージを配置しようとする、サイレント インストール中、管理者権限を持たないユーザーがこれを実行した場合に処理がループしました。この問題は解決されました。
IOJ-1917120 IOJ-2106599	InstallShield 2018 以降でビルドされたインストーラーを使用して配置された Web アプリケーションの web.config ファイルに、"統合 Windows 認証" 設定に [いいえ] が選択されたとき Windows 認証モード エントリが含まれました。このため、Web アプリケーションの開始に失敗する問題がありました。この問題は解決されました。
IOJ-1623447	リリース フラグ「NoFlags」を使って連鎖 MSI パッケージをビルドから除外した場合、連鎖パッケージのインストールに関連付けられているカスタムアクションが、 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビルドに含める</li> <li>• インストール時に実行するでため、インストールが失敗する原因となりました。</li> </ul> この問題は解決されました。

**問題番号****問題の概要**

**IOJ-2101478** ナレッジベース記事「InstallShield StandAlone Build with Docker (InstallShield StandAlone Build および Docker)」の SAB バージョン名の空白スペースを処理する Docker コマンドが更新されました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows 7</li> <li>• Windows Server 2008 R2</li> <li>• Windows 8</li> <li>• Windows Server 2012</li> <li>• Windows 8.1</li> <li>• Windows Server 2012 R2</li> <li>• Windows 10</li> <li>• Windows Server 2016</li> <li>• Windows Server 2019</li> </ul>
権限	システムの管理者権限

項目	説明
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
<b>InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)</b>	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Visual Studio 2008</li> <li>Visual Studio 2010</li> <li>Visual Studio 2012</li> <li>Visual Studio 2013</li> <li>Visual Studio 2015</li> <li>Visual Studio 2017</li> <li>Visual Studio 2019</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Professional</li> <li>Premium</li> <li>Ultimate</li> </ul>

## ターゲット システムの要件

スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1

- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

InstallShield 2020 R3 SP1 の既知の問題はありません。

## 法的情報

### 著作権情報

Copyright © 2021 Flexera Software.All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

### 知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.reverera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

### (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。